

伊豆縦貫道をキッカケにまちづくり!

(仮称) 下田地区(旧町内)まちづくりルール検討会!

まちづくりのついでに
No.11

歩いて楽しめるまちづくりなどを目指して、旧町内を対象に、まちづくりのルールづくりを検討していく組織です。

主な検討内容

- 都市計画法のルール活用検討
- 都市計画道路の見直し検討
- まちづくりに関する意見交換
- その他まちづくりに関すること

道路のありかたは…

建物の建て方は…



昨年度、各地域で行ったまちづくり会議での意見を反映させて策定された「下田市都市計画マスタープラン」を踏まえ、今年度は旧町内と稲生沢地区の交通環境問題から取り組みます。

下田地区新構想高校周辺地域交通環境検討会!

主な検討内容

- 実態の把握 (交通量・通学実態など)
- 課題の整理、分析
- 計画づくり
- 関係者との意見交換



交通環境に伴う課題の整理、分析を行い、学校・地域・行政(警察)が連携し、具体性の高い対応策を検討していく組織です。

これからもまちづくりへ取り組みます!

※各検討会組織は、各地区・関係団体等の代表者により構成されていますが、各地区関係者はオブザーバーとして参加できます。また、検討状況等を知りたい方は、建設課までご連絡下さい。

稲梓“土地”みまもり隊

稲梓に住んでおられる皆様も“隊”の一員として稲梓の土地の動向を見守って下さい!!

「お店ができたのはうれしいけど、夜遅くまで明るかったり、うるさくて眠れないわ!これ以上増えて欲しくない!!」



「このままでは子供の教育にふさわしくない建物が建ちそう…」

「周辺で稲梓の良さがなくなるような動き」を感じたら、どのような形でも建設課にご一報を。」

まちづくり三法の見直しにより、都市計画法が改正(平成18年5月)されました。これにより、都市計画区域外に適用される制度の考え方も見直されましたので、今後の動きにご注目下さい。

問合せ先 ▶ 建設課伊豆縦貫道係 TEL 22-2219 FAX 27-1007 E-mail: kensetsu@city.shimoda.shizuoka.jp

静岡県指定天然記念物 田牛ハマオモト自生地

所在地 田牛海後海岸
指定日 昭和27年4月1日



田牛ハマオモト自生地

海風によって吹き上げられた白砂が高く積もり、眼下に広がる青い海とのコントラストが眼に眩しい田牛海後海岸は、南国情緒の漂う清楚な花を咲かせるハマオモトの自生地となっています。ハマオモトとは?
別名をハマユウ(浜木綿)といい、ヒガンバナ科の多年草として、主に海浜の砂地に自生しています。

下田市内の指定文化財

の名の由来は、肉厚で長い葉がオモト(万年青・ユリ科の植物)に似ているからで、水はけが良く、日あたりの良い場所を好みます。東アジアから南アジアにかけての温暖な地域に広く分布しており、日本では千葉県以南の海岸線で見ることが出来ます。
ハマオモトは7月から9月にかけて、白色で強い香りを放つ花を咲かせます。



ハマオモトの開花状況

花期が終わると球形の果実を实らせ、熟すとコルク質の厚い皮に覆われた大きな種を落とします。この種には海上を何ヶ月も生きたまま漂流する能力があり、海流によって

現在の分布域まで拡大したと考えられています。



サンドスキー場としても人気の田牛海後海岸

田牛ハマオモト自生地

田牛に向う道路の集落手前から岩の間を抜けて海岸を望むと、斜面を下る階段に沿ってハマオモトの群落を見ることが出来ます。

田牛のハマオモトは、はるか南方より黒潮に運ばれた種がこの地で発芽し、群生したと言われており、海後海岸の独特な景観の中で自生した好例として静岡県の天然記念物に指定されています。

下田駅より田牛方面バス前の浜バス停下車 徒歩3分
問合せ先
教育委員会生涯学習課
☎5055

樹のたけ vol.55

今年の黒船祭の折に、在日米海軍司令官ジェームス・ケリー少将と大変親しくなりました。昨年、航空母艦キティホーク艦上で行われたルイ少将との司令官交代式でお会いして以来の再会でしたが、ヘリで下田入りされ出迎えた時、差し出された名刺が「慈英夢須 啓里」と日本語で印刷されており、ユーモラスな人柄に思わず笑われました。夕食を共にしている席で、市長さん!ぜひいちど航行しているキティホークへ飛行機で着艦してみませんか。とてもエキサイティングな体験です!エッ!そんな機会があったらぜひお願いします。そんな会話の余韻がさめない1週間後、ジョナサン第七艦隊司令官・ケリー在日司令官名で招待状が届きました。6月1日、米海軍厚木航空施設で説明を受けた後、招待された十数名はグレーハウンド(空母搭載輸送機)で、現在地を知らされない洋上訓練中のキティホークへ向かって飛び立ちました。胸ワクワクの反面、小さな窓が2つしかなく外も見えず暗い輸送機内、300のスピードで飛行し、洋上に豆つぶぐらいにしか見えない動いているキティホークへの着艦ですから恐怖心が無いといったらうそにな

るでしょう。防音耳栓をし、ヘルメットをかぶり、ゴーグルをかけライフジャケットを着用すると気分はもう海兵隊員です。300mの飛行甲板に着艦するため飛行機の着艦フックをワイヤーに引っかけ100m以内で停止させるため着艦時はすごい衝撃でした。迎えてくれたタグ・マックレイン第七艦隊戦闘部隊司令官は、5年前、福谷横須賀地方総監の案内で下田を訪問しました。下田は日本で私の好きなまちのひとつです。石井市長にお会いできてうれしいです」と思いがけないあいさつをいただきました。艦上で行われている対潜ヘリや最新型戦闘機スパーホーネット等の離着陸訓練を至近距離で視察しましたが、その内容は想像を絶するものでした。我々の離艦もこの訓練同様、蒸気カタパルトを使用して数十メートルの甲板から2秒で停止状態から時速300に加速しての離陸ですから着艦時以上の衝撃を感じました。
昭和36年に就任したキティホークは米海軍における現役最古艦で2年後には退役が予定されています。私が得た貴重な体験と共に、祖国アメリカと日本の防衛のために頑張っている姿に、日本人として新たな思いを感じました。



下田市長 石井直樹